

四月二十日 四月十七ページ
 「昨年の死因別統計」を見て
 これは問題だと思った人があ
 るだろう。昨年の自殺者が十
 二人で、死因別六位だ。ほか
 に未達者が何人かあるはず。
 過去五年間を調べたら、昭和
 十八年、八人と統計、昨年は五
 割増。今年も相変わらず続いて
 いる。自殺は一時的な心の病
 気だ。家族や周囲の人がそれ
 らしい気候に注意し、医師や
 市政だより四月十日号の「心
 の相談室」に相談するか、悩
 みごとなら市の心配ごと相談
 所に相談してほしい。

四月二十三日 東京神田のY
 MCAで挙行された筈の結婚
 式に出席。新郎は大学時代の
 知り合いで、高教師をしな
 がらの大学院生。媒妁は恩師
 の教授。そんな条件からか、
 披露宴は至って簡素。しかし
 翌日は日曜。娘の住む東大相
 市を自転車でもらる。典型的

市長の日記 石井新一

な東近郊の新興住宅都市で
 自転車の多いのが目につく。
 駅前自転車置場には約二千
 五百台。平日はもっと多い。
 近年できた広い街路は、片側
 の歩道が広くて自転車との共
 用。豊栄警察署前から白新町
 までの通学路線、近く六
 六日に拡幅する。今後造る
 広い道路はこのようにしては
 どうか。

四月二十六日 仮称新井郷小
 学校第二期工事は、一昨日
 入札して臨時議会で契約議決
 を得た。二年分の工事を二年
 で終わらせ、明年四月には、早
 通と下止地帯との統合小学校
 開校が確定的となる。小學校
 名は教育委員会検討中。
 母校愛の気持ちがあるが、両
 学区ともあまり自己主張をし
 ないで、将来ある子ども達の
 めめ大きな気持ちでがんばり
 たい。

五月四日 白根市で、幼い兄
 弟が農業用水路に落ちて死亡
 したと、全国紙にまで報道
 した。全園紙にまで報道
 「防護柵があれば」と新
 聞は書いた。しかし、農管
 理の河川、土地改良区管理の
 水路などが大部分で、延長百
 キロもある。早急に防護柵を
 設置することは事実上不可能
 保護者の嚴重な監視を要す
 沼垂小学校へ転動された貞
 柄校長が葛小在動中に、職員
 が記録した講話集、東浦へ転
 動された豊栄担当の佐藤菊雄
 農業改良普及員の随筆集「阿
 賀北の便り」、豊栄町当時社
 会教育主事として勤務した村
 上市選出小杉次郎郎講話の、
 在満中応召して終戦となり、
 郷里へ帰るまでの手記「祖園
 への道」が相次いで出版され
 た。近く曾我四郎次郎講話が、
 「長かった県政壇上への道」
 を出版すること。回顧し
 て、かけがえのない人生の記
 録を遺すことは意義深い。

二度目の柳葉賞を受けた 火山至(相沢誠)さん

「このたびは、おめでと
 うございます。ところで柳葉賞
 とは」

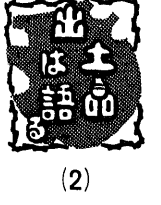
「新潟日報社で、毎年春秋
 の二回、読者文芸の川柳に優
 れた作品を授けられた者に贈
 る賞なんです。未熟者ですが、
 昨年の四月にも受賞したんで
 す。この柳葉は、なかなか厳
 しいんですよ。半年の長丁場
 でしょ。その間、ある程度の
 レベルに達した作品を持続し
 なければならぬし……」

「火山至という名は」

「私は火という字が大好き
 なんです。そこで火を使っ
 たんです。火山至というより、
 火山爆という名を付けたかっ
 たんですが、余りにもゴツい
 んで……。読み方ですか。ど
 うでもいいんです。カヤマ



「今後は川柳から足る2、い
 らほぼんにあ、だん
 川柳はほんまに、ま
 小思いついて、火
 小思いついて、火



郷土の生いたち

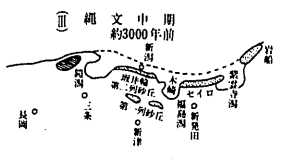
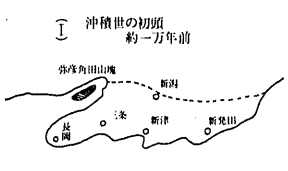
長くつづいて来た水河時代も
 終りをつけて、気温もあがり、
 水がとけ雨も多くなり海の
 水が増して来ました。今まで
 大陸つづきであった日本もは
 なれて列島になりました。我
 が越後平野も海の底になり村
 上から弥彦角田まで大きく入
 りこんで加治山や五十公野山
 が海岸で新発田新津三條長岡
 が海の底でした。これは約一
 万年前のことです。それが約
 うして豊かな田園になったか
 それには複雑な原因がありま
 す。だいたい葛塚木崎地区
 は砂丘からでき、岡方長浦地
 区は阿賀野川新井郷川駒林川
 其他の河川と福島湖の自然堤
 防からできたのです。まず葛
 塚木崎地区の砂丘からのべて
 みましよう。村上からはま
 った砂丘が紫雲寺聖籠付近か
 ら別れはじめて豊栄付近で十
 条の平行砂丘になりそれが阿

賀野川に分断され又浮びあが
 り信濃川の方までつづいてい
 る日本に一つしかない不思議
 な砂丘です。どうしてこんな
 砂丘ができたのでしょうか。
 十数年前から新潟大学の西田
 彰一先生が、新潟古砂丘研究
 グループの若い先生方の研究
 によりわかりかけてきました。
 それらを土台としてお話をす
 すめてゆきます。第一に村上
 と角田の間が突きてその間
 が深く湾状になっています。
 新潟から村上の方へ流れて居

る沿岸流は海岸に沿って流れ
 ますが湾状になつて流るので
 そこから内海に入り数年に別
 れて流れたり、逆流したりし
 たことです。第二は内海の底
 は平なものでなく、湾をとり
 まく陸上の山脈が海岸に平行
 に走っているように海底にも
 数條の高いところと低いところ
 が交互に海岸に平行に走っ
 ていたと思われま。こんな
 地形のところへ日本一の信濃
 川と水量の豊かな阿賀野川が
 上流から土砂を運び海流や猛
 烈な北風などによって不思議
 な新潟砂丘が生れたといわれ
 ています。かかげた地図は西
 田先生が昭和三十一年に日報

に發表されたものです。第一
 図は約一万年前の古越後海で
 第二図は約六千年前の図で弥
 彦角田の先端に砂丘がつきは
 じめ現在の亀田、岡方の高森
 佐々木紫雲寺等の砂丘が点々
 とできてきました。第三図は第
 一列砂丘の前に坂井輪聖籠岩
 船へと第二列の砂丘ができ岩
 船湖として残ったのです。つ
 づいて第三第四と十條の砂丘
 が内側から形成され約二千年
 前最後の海岸砂丘ができ新潟
 までつづいて新潟砂丘に終止
 符をつたのです。

—— 山田 佑二記 ——



現在の懐中電燈のように夜
 間や暗いところに使った携帯
 燈火具にガンドウがありました
 た。藤下の橋本紀伊さん功に
 語っていただきました。

「私は使ったことないんで
 す。嫁に来た時、もう、(二)
 の家にあつたんです。勿論

使ったことも余り見なかっ
 たです。私の夫が、家におい
 ても使われないから博物館へ寄
 贈したんです。今は夫も亡
 くなつて、ガンドウのことを話
 してくれる人もいなくなりま

「かんぐ」 (14) ガンドウ



写真は大小のガンドウ
 を持った橋本 紀伊さん

「はい、長さ三十
 センチ、直径十二
 センチで、竹のタガが
 鉄(カナ)タガをは
 めて筒状に作り、底
 部外側に取手をつけ
 ました」

「どういふものな
 のですか」

「ガンドウという名は
 保ち、火が消えないようにな
 っているんです」

「詳しいことはしりません
 が、物の本によれば、ガンド
 ウとは籠燈と書くんですね。
 仏壇の燈ですけれど、しかし、
 このガンドウは強盗提燈(が
 んどうちようちん)なんです。

強盗(こうとう)の強は、唐
 音でガンというらしいんです
 私の想像ですが、ガンドウ
 は先だけを照らし、自分の方
 へは光が当たらず、ちょうど
 自分の顔を見せない提燈の持
 つ提燈みたいだからなんです
 ようね」

「どんな時に使ったのです
 か」

「一目明(めあかし)などが
 夜間の捜索に使用するとき、
 赤穂浪士が吉良邸討ち入りの
 時に持参したとか言い伝えら
 れていますが、ここらでは夜
 道を歩く時に使用したとき
 ています」

江戸時代の品物と言われ、
 明治に入ってから木製から
 プリキ製のものが一部で使わ
 れたといわれています。